

科目名	在宅看護概論		時期		時間	単位
担当教員	専任教員		2年次	前期	30時間	2単位
科目設定理由	諸外国に例を見ない速さで進む高齢化を背景に、地域の人々が可能な限り住み慣れた地域で、その人らしい暮らしを続けられるように地域包括ケアシステムの構築が求められている。このような状況下において在宅看護は重要であり専門性の発揮が不可欠である。そこで、在宅看護の変遷や在宅看護の目的と特徴や対象、かかわる制度・法令、社会資源の活用における看護師の役割と看護実践活動との関連等の学びを深めることにより、看護実践力の強化を図ることを目的に当該科目を設定した。					
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 看護を取り巻く社会背景をもとに、在宅看護の目的と特徴を理解する</li> <li>2 在宅看護における対象者を理解する</li> <li>3 在宅療養における支援を理解する</li> <li>4 在宅看護にかかわる法令・制度と社会資源の活用方法を理解する</li> <li>5 在宅看護における権利保障を理解する</li> <li>6 保健医療福祉チームの一員としての在宅看護における看護師の役割を理解する</li> </ol>					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1~2	在宅看護の目的と特徴	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 在宅看護とは               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)在宅看護の変遷</li> <li>(2)在宅看護の目的</li> <li>(3)在宅看護の特徴</li> </ol> </li> </ol>				講義
3~7	在宅看護の対象者	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 在宅療養を必要とする対象者               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)年齢・疾患・障害からみた対象者</li> <li>(2)在宅療養状態別にみた対象者</li> </ol> </li> <li>2 在宅看護の対象者としての家族</li> </ol>				講義
8~10	在宅療養の支援	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 在宅療養における基本的支援               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)症状マネジメント</li> <li>(2)自立・自律支援</li> <li>(3)療養上のリスクマネジメント</li> <li>(4)権利擁護</li> <li>(5)多職種協働</li> </ol> </li> <li>2 療養の場の移行に伴う支援               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)意思決定支援と調整</li> <li>(2)退院支援、退院調整のプロセス</li> <li>(3)医療機関、施設、地域との連携</li> </ol> </li> </ol>				講義
11~13	在宅看護にかかわる法令・制度と社会資源	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 在宅療養を支援する仕組み               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)介護保険制度</li> <li>(2)医療保険制度</li> <li>(3)障害者総合支援法</li> <li>(4)難病法</li> <li>(5)医療介護総合確保推進法</li> </ol> </li> <li>2 訪問看護の制度</li> <li>3 在宅療養を支える社会資源の活用</li> </ol>				講義
14	在宅看護における権利保障	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 在宅看護における権利保障               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)個人の尊厳</li> <li>(2)自己決定権</li> <li>(3)個人情報保護</li> <li>(4)守秘義務</li> <li>(5)成年後見</li> <li>(6)虐待の防止</li> </ol> </li> </ol>				講義
15	試験 (90分)	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論		河原 加代子 他		医学書院	
	写真でわかる訪問看護アドバンス		押川 真喜子 監修		インターメディアカ	
	国民衛生の動向		厚生統計協会			
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験、課題レポート、演習、出席状況などから総合的に判断する					

科目名	在宅看護援助論 I		時期		時間	単位
担当教員	看護師		2年次	前期	30時間	1単位
科目設定理由	在宅看護に重要な介護保険制度などの理解を踏まえて、訪問看護サービス提供の具体的な内容を理解する。また、事例を通して在宅看護における支援の実際を学び、在宅療養者および家族のセルフケア能力や家庭状況を考慮した在宅看護技術を講義や演習を通して看護実践能力を養うことを目的に当該科目を設定した。					
学習目標	1 訪問看護時における看護師の基本姿勢を習得する 2 在宅看護における制度の活用方法を理解する 3 地域における多職種連携の必要性について考察する 4 療養者の状況に応じた支援の方法を理解する					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1~4	看護師の基本姿勢	1 在宅看護の活動を支えるコミュニケーション 2 訪問時のマナー、心構え、態度と行動 (1) 演習 (2) DVD視聴				講義・演習
5~9	在宅看護における制度の活用	1 訪問看護サービスの提供 (1) 訪問看護の提供とチームケア (2) 訪問看護ステーションの管理・運営 (3) 訪問看護サービスの質保証 (4) 訪問看護の記録 2 ケアマネジメントと社会資源の活用 (1) ケアマネジメントの概念 (2) ケアマネジメントの過程 (3) 介護保険制度におけるケアマネジメント 3 地域における多職種連携 (1) 多職種との連携 (2) 医師との連携 (3) 社会資源との連携 4 介護予防型地域ケア個別会議の見学【演習】				講義・演習
10~14	事例で学ぶ在宅看護の実際	1 在宅看護介入時期別の特徴 (1) 各時期における在宅看護の特徴 2 療養者の症状・状態別の看護 (1) ALSの療養者 (在宅人工呼吸療法、非侵襲的陽圧換気療法) (2) ギランバレー症候群の療養者 (3) 重症筋無力症の療養者 (4) 脊髄損傷の療養者 (5) 重度心身障害児 (6) 膠原病の療養者 (7) 終末期の療養者				講義
15	試験 (90分)	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論		河原 加代子 他		医学書院	
	写真でわかる訪問看護アドバンス		押川 真喜子 監修		インターメディアカ	
参考図書・資料等	看護過程に沿った対象看護 第4版		高木 永子 他		学研	
評価方法	筆記試験、課題レポート、演習、出席状況などから総合的に判断する					

科目名	在宅看護援助論Ⅱ		時期		時間	単位
担当教員	専任教員		2年次	後期	30時間	1単位
科目設定理由	在宅で療養する対象者の日常生活を支援する看護技術や医療管理のための医療技術と看護について学ぶ。対象者の状況に応じて適応する実際を理解し、在宅看護における看護過程のプロセスについて演習を通して理解することにより、在宅看護の実践能力の向上を図ることを目的に当該科目を設定した。					
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 在宅看護における看護過程の特徴を理解する</li> <li>2 在宅で求められる看護技術を理解する</li> <li>3 在宅における医療管理を要する療養者への看護を理解する</li> <li>4 事例を用いて在宅における看護過程の展開方法を理解する</li> </ol>					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1~2	在宅看護の展開	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 在宅における看護過程の展開方法               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 在宅看護過程の特徴</li> <li>(2) 情報収集とアセスメント</li> <li>(3) 目標の設定・計画</li> <li>(4) 実施と評価</li> </ol> </li> </ol>				講義
3~9	在宅看護技術	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 在宅で求められる看護技術               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 呼吸に関する在宅看護技術</li> <li>(2) 食生活・嚥下に関する在宅看護技術</li> <li>(3) 排泄に関する在宅看護技術</li> <li>(4) 移動・移乗に関する在宅看護技術</li> <li>(5) 清潔に関する在宅看護技術</li> </ol> </li> <li>2 在宅における医療管理を要する人の看護               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 在宅経管栄養法【演習】</li> <li>(2) 在宅中心静脈栄養法</li> </ol> </li> </ol>				講義・演習
10~14	事例で学ぶ在宅看護過程の展開	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 事例演習</li> </ol>				講義・演習
15	試験（90分）	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論		河原 加代子 他		医学書院	
	写真でわかる訪問看護アドバンス		押川 真喜子 監修		インターメディアカ	
参考図書・資料等	看護過程に沿った対象看護 第4版		高木 永子 他		学研	
評価方法	筆記試験、課題レポート、演習、出席状況などから総合的に判断する					

科目名	看護研究 I		時期		時間	単位
担当教員	専任教員		2年次	前期・後期	30時間	1単位
科目設定理由	<p>専門職である看護職は、よりよい看護実践が行えるように新しい知識や技術の創造と開発に努め、看護学の発展に寄与することが求められている。そのためには、問題発見、問題分析、問題探求・調査、倫理的思考などの能力を身につける必要がある。そこで、研究の意義と方法を理解し、看護に対する科学的思考と姿勢を修得するため当該科目を設定した。</p>					
学習目標	<p>1 看護における研究の意義と方法がわかる  2 研究のプロセスとその進め方がわかる  3 研究の一連の過程を体験することにより、科学的思考と姿勢をもつことができる</p>					
<b>授 業 計 画</b>						
回数	項目	内容			備考	
1~2	看護における研究の役割	1 研究とは何か 2 看護研究の意義 3 看護研究の分野 4 看護研究と倫理			講義	
3~14	看護研究のプロセス (1) 研究のテーマ	1 問題意識 2 データの収集			講義	
	(2) 仮説の設定	1 研究課題の選択 (1) 動機とテーマ (2) 用語の定義 (3) 仮説の設定 2 文献検索			講義	
	(3) 研究方法の選択	1 研究デザイン 2 研究方法の選択			講義	
	(4) 看護研究計画書	1 研究計画書の意義 2 研究計画書の作成			講義	
	(5) 研究結果の活用	1 データの分析 2 結果 3 考察・結論			講義	
	(6) 論文の書き方	1 論文の構成 2 留意事項 3 抄録の構成			講義	
	(7) 発表と講評	1 研究を発表する意義と留意点 2 プレゼンテーションソフトの活用 3 研究発表(学内)への参加			講義	
	(8) 学術集会(学会)参加	学術集会(学会)への参加			演習	
15	試験(90分)	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 別巻 看護研究		坂下 玲子 他		医学書院	
	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [1]看護学概論		茂野 香おる 他		医学書院	
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験、レポート、看護研究の実際、学会参加報告から総合的に評価する					

科目名	看護研究Ⅱ		時期		時間	単位
担当教員	専任教員		3年次	前期・後期	30時間	1単位
科目設定理由	<p>専門職である看護職は、よりよい看護実践が行えるように新しい知識や技術の創造と開発に努め、看護学の発展に寄与することが求められている。研究には様々な研究デザインがあるが、その中での事例研究は多角的・包括的に質的な情報を詳細に記述し、事例のもつ固有の意味や法則性を見いだすことができる。</p> <p>そこで、臨地実習を通して自己の実施した看護を振り返り、研究的態度を養うため当該科目を設定した。</p>					
学習目標	<p>1 自己の看護を振り返り、看護に対する考えを論理的に追求し、研究的態度を養う</p> <p>2 研究的態度を継続する必要性を理解する</p>					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1	事例研究とは何か	<p>1 事例研究の意義</p> <p>2 事例研究の方法</p> <p>3 事例研究と倫理</p>				講義
2~5	研究の実際	<p>1 研究のテーマの設定</p> <p>2 研究計画書の作成</p> <p>3 文献検索</p> <p>4 研究論文の作成</p> <p>5 抄録の作成</p>				講義
6~13	研究発表準備	<p>1 発表原稿作成</p> <p>2 補助資料の作成</p> <p>3 発表練習</p> <p>4 座長・司会・書記の役割準備</p> <p>5 発表会場・スケジュールの確認</p> <p>6 リハーサル</p>				講義
14~15	研究発表会	研究発表（学内）				演習
使用テキスト	系統看護学講座 別巻 看護研究		坂下 玲子 他		医学書院	
	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [1]看護学概論		茂野 香おる 他		医学書院	
	看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方		松本 孚・森田 夏実		照林社	
参考図書・資料等	アカデミックスキルズ 大学生のための知的技法入門 第2版		佐藤 望 他		慶應義塾大学出版会	
	ピアで学ぶ大学生の日本語表現 [第2版]		大島 弥生 他		ひつじ書房	
評価方法	研究論文 看護研究の実際から総合的に評価する					

科目名	看護の統合と実践技術		時期		時間	単位
担当教員	専任教員		3年次	前期・後期	30時間	1単位
科目設定理由	看護は人間の健康に焦点をあて、あらゆる成長・発達段階にある個人、家族、集団、地域・社会の中で生活している人を対象とし、その人がもつ自らの力を最大限に発揮し、最期までその人らしく生きることを支援する。そのため、看護実践においては様々な状況にある対象に対し、安全・安楽、優先順位を迅速に判断しながら行動することが求められる。そこで、看護実践を遂行するうえで、よりリアルに実際の対象の状態・状況を想定し、高い看護実践能力を養うため当該科目を設定した。					
学習目標	1 看護実践場面における医療安全と優先順位、倫理的配慮について理解する 2 シミュレータを通して、場面に応じたアセスメントと援助を適切に実施する					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1~3	チームで協働する看護実践	1 複数患者の状況判断と援助計画 2 多重課題と優先順位 3 時間管理と業務の組み立て 4 看護チームにおけるメンバーシップ 5 看護倫理と看護実践				講義
4~5	場面に応じた看護技術	1 診療の補助技術 (1) 輸液療法、採血、吸引、救命処置 (2) ME機器の操作 など (3) 輸液ポンプ、シリンジポンプの適応、観察、操作方法				講義・演習
6~14	様々な患者の状況に応じた看護実践	1 様々な状態の患者に対するアセスメント (1) 安全・安楽・自立 (2) 倫理的配慮 (3) タイムプレッシャー (4) 優先順位 (5) 状況に合わせた看護実践 2 援助の方法と留意点 3 なりきり看護師学習 (1) アナフィラキシー症状への初期対応 (2) 初めて化学療法を受ける患者への看護 (3) その他 4 シミュレーション学習 (1) ブリーフィング (2) シミュレーション (3) デブリーフィング				講義・演習
15	試験 (90分)	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [1]看護管理			上泉 和子 他		医学書院
	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3]基礎看護技術Ⅱ			有田 清子 他		医学書院
	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版			任 和子 他		医学書院
参考図書・資料等	医療安全ワークブック 第3版			川村 治子		医学書院
評価方法	筆記試験、レポート、技術試験から総合的に評価する					

科目名	看護管理		時期		時間	単位
担当教員	副校長、看護師		3年次	後期	15時間	1単位
科目設定理由	現代の看護管理の場は病院から地域の保健医療福祉の場へと拡大し、看護管理について必要な知識・技術は、管理者だけでなく看護実践者にも必要なものとなっている。そこで、より質の高い看護サービスを提供するためには、病院や看護部の組織・機能を理解し、多職種と連携・協働するために必要な知識・技術・態度を学ぶため当該科目を設定した。					
学習目標	看護活動を円滑に行うための管理について理解する					
授 業 計 画						
回数	項目	内容				備考
1	看護とマネジメント	1 看護管理学とは 2 看護におけるマネジメント				講義 (副校長)
2	看護ケアのマネジメント	1 看護ケアのマネジメントと看護職の機能 2 患者の権利の尊重 3 安全管理 4 チーム医療 5 看護業務の実践				講義 (副校長)
3~5	看護職のキャリアマネジメント	1 キャリアとキャリア形成 2 看護職のキャリア形成 3 看護専門職としての成長 4 ストレスマネジメント				講義
	看護サービスのマネジメント	1 看護サービスのマネジメント 2 組織目的達成のマネジメント 3 看護サービス提供のしくみづくり 4 人材のマネジメント 5 施設・設備環境のマネジメント 6 物品のマネジメント 7 情報のマネジメント 8 組織におけるリスクマネジメント 9 サービスの評価				講義
6	マネジメントに必要な知識と技術	1 組織とマネジメント 2 リーダーシップとマネジメント 3 組織の調整				講義
7	看護を取り巻く諸制度	1 看護職と諸制度 2 医療制度				講義 (副校長)
8	試験 (45分)	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [1]看護管理			上泉 和子 他		医学書院
参考図書・資料等	医療安全ワークブック 第3版			川村 治子		医学書院
評価方法	筆記試験					

科目名	地域医療		時期		時間	単位
担当教員	福祉保健部医師・看護職員確保対策課 吉嶺 文俊・井口 清太郎、布施 克也		3年次	後期	15時間	1単位
科目設定理由	<p>今日の高齢化の進展に伴う要介護者の増加や、生活習慣病の増加、疾病の多様化・複雑化等、地域住民を取り巻く健康問題の解決に地域医療の果たす役割は大きい。地域医療は病院等の医療機関での疾患の治療や看護にとどまらない概念であり、医師や医療従事者の活動と同等に、行政や住民組織と協力して進めていくことが特徴である。そこで、地域医療の概念や現状、地域医療提供体制の概要、住民自身と家族・地域が健康づくりを目指す活動や専門職連携協働のための教育活動、地域包括ケアシステム構築の重要性を学び看護実践に活かすことを目的に当該科目を設定した。</p>					
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 新潟県における医療の状況を理解する</li> <li>2 地域の医療連携体制と地域医療構想を踏まえた病院の役割等を理解する</li> <li>3 地域医療提供体制構築についての取り組みを理解する</li> <li>4 地域住民と医療関係者等が取り組む健康づくりの実態を理解する</li> </ol>					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1	新潟県における医療の状況	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 医療事業と病床数等の推計</li> <li>2 地域医療における人材育成・確保対策の現状と課題</li> </ol>				講義 (福祉保健部)
2	十日町圏域における医療の状況	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 十日町地域の医療連携体制</li> <li>2 地域医療構想を踏まえた十日町病院の役割 (1) 医療提供体制 (2) 地域包括ケアシステム</li> </ol>				講義 (吉嶺)
3~4	地域医療提供体制の整備	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 新潟地域医療学講座 地域医療部門について</li> <li>2 取り組み内容 (1) 魚沼等の地域医療の現場に根ざした地域医療提供体制整備 (2) 専門医の認定・更新を可能とする体制整備 (3) その他</li> </ol>				講義 (井口)
5~7	地域医療魚沼学校	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域包括ケアにおける地域医療魚沼学校 (1) 学校の沿革・教育目的・教育目標 (2) 学校カリキュラム ①住民が学ぶ ・ナイトスクール、オープンスクール、その他 ②専門職が学ぶ ・地域包括ケアのためのIPW 言語講座 専門職種と住民の合同研修会 ・地域包括ケアのためのIPW 実践講座 病院から在宅へ、オープン委員会、IPW回診 ・地域包括ケアのためのIPW 大学院 個別の課題解決のための専門研修 ③学生・研修医が学ぶ ・オープンホスピタル、地域医療研修特別プログラム (TMM講座、EMM講座)</li> <li>2 地域医療魚沼学校の講座への参加</li> </ol>				講義・ 体験学習 (布施)
8	試験 (45分)	まとめ				
使用テキスト	医療経済学・地域医療学		浜田 淳 他		岡山大学出版会	
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験、レポート等から総合的に評価する					



科目名	医療安全		時期		時間	単位
担当教員	看護師、専任教員		2年次	後期	30時間	1単位
科目設定理由	医療のめざましい発展とともに看護を取り巻く環境はより複雑・高度化し、医療事故が発生しやすい状況に置かれている。そのため、医療事故が起きる背景を理解し、看護場面における事故防止のためのリスクアセスメントと技術を身につけることが必要である。そこで、医療事故や安全対策について学び、医療事故による被害を最小限にする方法を学ぶため当該科目を設定した。					
学習目標	1 安全な医療、看護を提供するための医療安全対策を理解する 2 看護場面で遭遇しやすい医療事故を理解する					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1	事故防止の考え方を学ぶ	1 医療事故と看護業務 2 看護事故の構造 3 看護事故防止の考え方				講義
2	診療の補助の事故防止（Ⅰ）・（Ⅱ）	1 業務特性からみた患者に投与する業務の事故防止 2 注射業務と事故防止 3 注射業務に用いる機器での事故防止 4 輸血業務と事故防止 5 内服与薬業務と事故防止 6 経管栄養（注入）業務と事故防止 7 チューブ管理と事故防止				講義
3～7	療養上の世話の事故防止	1 療養上の世話における2群の事故の捉え方と防止 2 転倒・転落事故防止 3 摂食中の窒息・誤嚥事故防止 4 異食事故防止、入浴中の事故防止				講義
8	業務領域をこえて共通する間違いと発生要因	1 業務領域をこえて共通する患者間違い 2 間違いを誘発する多重課題、タイムプレッシャーと業務途中の中断 3 新人特有の危険な思い込みと行動パターン				講義
9	医療安全とコミュニケーション	1 不正確・不十分なコミュニケーションは事故の重要要因 2 事故防止のための医療職間のコミュニケーション 3 医療事故防止のための患者とのコミュニケーション 4 事故の未然防止上重要なコミュニケーション				講義
10～11	看護師の労働安全衛生上の事故防止	1 職業感染 2 抗がん剤の曝露防止、放射線被曝 3 ラテックスアレルギー、院内暴力				講義
12	組織的な安全管理体制への取り組み	1 組織としての医療安全対策 2 システムとしての事故防止の具体例 3 重大事故防止発生時の医療チーム及び組織の対応				講義
13	医療安全対策の国内外の潮流	1 わが国の医療安全対策の潮流 2 国外の医療安全対策の潮流と国際的連携 3 産業界から学ぶーヒューマン・ファクターズの取り入れ				講義
14	安全対策の実際	1 事例を通したリスクアセスメント				講義 (専任教員)
15	試験（45分）	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [2]医療安全			川村 治子	医学書院	
	医療安全ワークブック 第3版			川村 治子	医学書院	
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験、レポート、演習内容等から総合的に評価する					

科目名	災害看護		時期		時間	単位
担当教員	齋藤 悠、看護師		3年次	後期	15時間	1単位
科目設定理由	現代、わが国のみならず世界各地において地震や風水害などの自然災害が多発し、被災地の人々は命や健康が脅かされ、財産を奪われるなど多くの被害を受けている。また近年、地球温暖化に伴う気候変動もあり、災害の頻度や規模が拡大し、被害も増大しているため被災傷病者の医療・看護への期待は大きく、人々の健康にかかわる看護師には専門職としての役割を發揮していくことが求められている。そこで、災害に直面し極限状態に置かれた対象を理解し、人権の尊重と深い倫理観をもって看護活動を行う能力を養うため当該科目を設定した。					
学習目標	1 健康生活と自立を支えるために必要な災害時期に応じた看護活動を理解する 2 災害関係諸機関と連携しながら、他職種との協働の中で看護の役割を理解する					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1	災害医療の基礎知識	1 災害の定義 2 災害の種類と健康障害 3 災害医療の特徴 4 災害と情報 5 災害対応にかかわる職種間・組織間連携 6 災害看護と法律 7 国内の救護活動の現状と課題				講義 (齋藤)
2	災害看護の歩みと基礎知識	1 活動援助としての災害看護のはじまり 2 災害の体験から求められる看護の役割拡大 3 災害看護の定義と役割 4 災害看護の対象 5 災害看護の特徴と看護活動				講義 (看護師)
3	災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護	1 急性期・亜急性期 2 慢性期・復興期 3 静穏気				講義 (看護師)
4	被災者特性に応じた災害看護の展開	1 子ども・妊産婦・高齢者・障害者に対する災害看護 2 精神障害者に対する災害看護 3 慢性疾患患者に対する災害看護 4 在日外国人に対する災害看護				講義 (看護師)
5	災害とこころのケア	1 こころのケアとは 2 被災者・遺族・被災援助者のこころのケア 3 援助者のストレスとこころのケア				講義 (看護師)
6~7	看護支援活動の実際 (災害医療に必要な看護技術)	1 トリアージ 2 応急処置と搬送(止血法を含む) 3 心肺蘇生法(意識レベル・CPR・AED)				講義・演習 (看護師)
8	試験(45分)	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学			浦田 喜久子 他		医学書院
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験、レポート等から総合的に評価する					

科目名	国際看護論		時期		時間	単位
担当教員	辻村 弘美		1年次	後期	15時間	1単位
科目設定理由	近年、我が国のみならず世界的にもグローバル化が進んできている。そのため、看護師が対象とする人間は、感染症や環境汚染、貧困などの影響を受けて様々な健康問題を生じている。また、日本国内における「人の国際化・グローバル化」は目覚ましく、地域社会は着実に多国籍化・多民族化している。そこで、異文化を理解した上で国内外において国際看護活動が実践できる能力を養うため当該科目を設定した。					
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 世界の人々が抱える健康問題を理解する</li> <li>2 健康格差を生む要因を理解する</li> <li>3 世界の人々の健康に貢献する看護師の活動について理解する</li> <li>4 諸外国の医療・看護および日本における在日外国人に対する看護を理解する</li> </ol>					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1	国際看護の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 国際看護の定義</li> <li>2 国際看護に関連する基礎知識</li> </ol>				講義
2	国際看護活動の支援を必要とする対象	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 国際看護活動が扱う範囲</li> <li>2 海外における看護活動</li> <li>3 在日外国人への看護活動</li> </ol>				講義
3	異文化理解	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 文化を考慮した看護理論               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) レイニンガーの看護理論</li> <li>(2) 異文化のアセスメントモデル</li> </ol> </li> </ol>				講義
4~5	開発協力と看護活動	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開発途上国と看護               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 貧困と健康</li> <li>(2) 女性の健康</li> <li>(3) 感染症</li> </ol> </li> </ol>				講義
6	国際看護活動の実際①	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 国際協力活動の実際</li> <li>2 海外における看護活動の実際</li> </ol>				講義
7	国際看護活動の実際②	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 諸外国（中国、韓国・朝鮮、フィリピン等）における社会・医療保障制度</li> <li>2 諸外国における医療・看護の状況</li> <li>3 在日外国人への看護</li> </ol>				講義
8	試験（45分）	まとめ				
使用テキスト	国際看護 国際社会の中で看護の力を発揮するために			森 淑江 他		南光堂
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験、レポート					